

# 平成30年度 第2回人権教育学級

日時：7月12日（木） 9：50～11：50

場所：別府市役所 5F大会議室

演題：障がい者と人権

～ 障がい者と人権 ～

講師：別府市自立支援協議会

会長 田川 収一 さん



田川収一さん

## ●講演概要

### 1 はじめに

---

- ・ 障がいとの出会い
- ・ 親としてのとまどい、悩み
- ・ 障がいの種類 → 身体障がい、知的障がい、精神障がい

### 2 発達障がいの概念

---

- ・ 発達障がいには・・・
  - 注意欠陥多動性障がい、学習障がい、広汎性発達障がい、高機能自閉症、アスペルガー症候群、自閉症などがあることを分かりやすく図に示して説明を行った。障がいには、重なりがあることが分かる。
- ・ 中でも、広汎性発達障がいの特性は・・・
  - 自閉症
  - 高機能自閉症（言葉の発達の遅れ）（他人との関係）（こだわる）
  - アスペルガー症候群（言葉の発達の遅れがない）（他人との関係）（こだわる）
  - ADHD（注意欠陥・多動性障害）
  - LD（読み書きに困難）
  - ※IQ70が目安（知的障がい、療育手帳所持者）

### 3 特別支援教育の対象の概念

---

- ・ 特別支援学校と小中学校の特別支援学級・通級指導教室の指導の対象と内容
- ・ 障がいは、治らない。いかに社会生活ができるように考えていくかが大事。

### 4 有名人の障がい

---

- ・ LDと診断されたアメリカの俳優Aは、耳から聞いて理解する。また、少年時代にADHDと診断された水泳選手Bは、母親がその特性を生かして、水泳を始めさせた。どちらも障がいを特性として捉え、特性を磨いている。

## 5 自閉症の特徴 1・2・3 と接し方

---

- ・特徴1 対人関係の障害
- ・特徴2 コミュニケーションの障害
- ・特徴3 特徴的なこだわり

### <接し方>

- ・否定的ではなく肯定的な言い方をする。→「〇〇くん(さん)、おもちゃを片付けます。」
- ・具体的に伝える →「廊下を走らない」ではなく、「廊下は歩いてください。」
- ・声をかけるときのポイント →「みなさん、いいですか？」ではなく、その子  
の名前で注意を喚起する。望ましくない行動を注意するより、良い行動ができたときに「すかさずほめる」ことが重要



講演中の田川さん

## 6 長期目標から短期目標を考える

---

- ・長期目標の具体化
- ・できそうなことを順番に並べる
- ・可能なことから始める

## 7 親の気持ち

---

- ・家族のあゆみと次のステップ  
ターニングポイントは4つ
- (1) 障がいがあったとき・・・乳幼児期
  - ・ショックの段階・・・母として  
否認 混乱 無力感 孤立感 アイデンティティの混乱 自責の念  
不安 焦燥感
  - ・ショックの段階・・・父として  
否認 混乱 責任感 客観性 葛藤
- (2) 学齢期
- (3) 学校を卒業するころ
- (4) 成人した子どもが自分なりの自立をするとき

## 8 障害者の現状

---

### (1) 別府市の障害者数 (平成26年)

身体障害者手帳所持者数	6,895人
療育手帳(知的障害者)所持者数	858人
精神障害者保健福祉手帳所持者数	937人
合計	8,690人(7%)

### (2) 特別児童扶養手当について

- ・精神又は身体に障害を有する児童について手当を支給することにより、  
これらの児童の福祉の増進を図ることが目的

- ・ 1 級、 2 級

(3) 障害年金について

- ・ 認定基準→外部障害 精神障害 内部障害
- ・ 年金額 1 級、 2 級

(4) 工賃

- ・ 平成 2 4 年度の就労継続支援 B 型事業所と就労継続支援 A 型事業所の工賃（賃金）
- ・ 5 0 人以上の企業は、障がい者を雇用しなくてはならない。法律で決まっている。

## 9 障害に対する考え

---

◇障害の特性は、生涯にわたるが、適応状態は改善していく。

◇障害の特性よりも個々の特性把握が大切

- ・ 特別支援学校の 6 年間で成長した子どもの姿
- ・ 聖書の言葉

### ●班の話し合い

○今日のお話で障がいのことやそれに関わることなどがいろいろ分かってとてもよい勉強になりました。困っているお子さんや保護者へのより良い環境が整ってくれることを願っています。

○子どもが小さいときにこの話を聞いておくと良かったと思いました。障がいをもった子どもが支援学校に行く意味を小さい頃から考えるべきだと思いました。

○障がい者の年金や賃金のことは、今日の話聞くまで知りませんでした。この賃金で生活できるのかと不安に思う部分があります。

○障がい者へのサービスにちがいはあることは知りませんでした。自分たちもいろいろと勉強すべきだと思いました。

○今日のお話を聞いて、いろいろと考えさせられました。

例えば、父親はいつか治るのではと楽観的な場合があること、社会全体で支援の充実を図ること、障がいをもつ子どもたちが社会に出て行きやすい過ごしやすい

くなるような支援・施設・活動を増やしていくこと、周りの理解を進めるような場をもつこと、母親への負担を軽くすること、障がいをもつ子どものことを周りの子どもたちへ伝える場合学校任せにしないで家庭でもきちんと伝えることが大切・・・など、たくさんの方が勉強になりました。



班での話し合い

○私たちの班では、次のようなことが話題になりました。

父親は他人ごととして考えるということに共感できた。母親は自分ごととして考える。IQは、数字として出るが、紙で測ることはできない。その時の調子で数値は変わる。新年度になると先生が変わるのも困る・とまどう部分がある。自分から問い合わせないと情報がこないの、今日のような会があるとありがたい。すべてが手探りなのであとで知ることもある。情報をもっと知る場があるとよい。・・などです。

○障がいの内容はだまかに知っていたが、今日の講演を聞いて具体的な障がいの違いについて理解することができよかったです。

○別府市では、障がいがあるなしに関わらず、子どもどうしが上手に関係を保つことができている様子が伺われます。別府市では、障がいをもっている方との交流の場が多いのもそれに一役かっていると思います。



班からの発表の様子

○学校では、どのように子どもたちの障がいについて伝えられているのかが知りたいが、個人情報にも関わることなので先生たちも厳しいと思います。

○発達障がいという言葉は、数年前まではあまり耳にしなかった。認知度は上がってきたがまだまだだと思ふ。まずは関心を持たなければと思いました。

○「病気は治るが、障がいは治らない。」と聞いてびっくりしました。でも、障がいの特性を把握し適切に対応していけば、適応状態は改善していくということなので、できることを伸ばしていけたらと思いました。

○工賃のところで、所得の低さにびっくりしました。親の支援がないとなかなか生活していくことが難しい。自分が何ができるか分からないが変えていかなければと思いました。

○今日の学習で、「接し方・言葉かけの仕方」などを学べてよかったです。



班からの質問に答える田川さん

○いろいろな障がいがあるが、その特性を理解することが必要です。親も子も先生も。そして、地域でももっと協力が必要だと思いました。

○いろいろな障がいがあることを改めて知りました。別府市は、サポートが充実していて恵まれていると思います。自分も偏見をもたず、いろいろな人のことを理解していかなければと思いました。